

授業科目名	舞台芸術研究	担当形態	演習		
		開講学期	秋学期		
担当教員	はせ ひろいち	単位	1	年次	2

### ＝授業のテーマ及び到達目標＝

舞台芸術に具体的に関わる各スタッフの仕事の意味と基本技術、その精神を疑似体験的に学ぶ。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

- ・実習期間は、動きやすい服装、靴で参加する。
- ・座学の期間は筆記用具を持参する。
- ・特に実習期間の無断欠席、無断遅刻はしないように。

### ＝授業の概要＝

総合アートと言われる舞台芸術において、実際に現場が立ちあがっていく過程の中、具体的に関わってくる各スタッフの仕事の意味と芸術性、基本的な技術を疑似体験的に学ぶ。自分の価値観や世界観だけでは到達できない演劇の豊かさを経験し、時にリスクすら進化に変わる演劇の懐の深さに触れることで、積極的に自己の柔軟さ、客観的な姿勢を身に付ける。また、授業を通じ、舞台人としての最低限の挨拶やマナーを習慣づける。

### ＝授業計画＝

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）や挨拶、マナー、ルールの確認。
- 2回 舞台スタッフの概要。その構造図。
- 3回 舞台用語の基礎解説。
- 4回 「戯曲とは」①。他文化との差異。
- 5回 「戯曲とは」②。実際に短い会話を執筆。
- 6回 「戯曲とは」③。自作の会話劇を立体化。
- 7回 「演出とは」
- 8回 「照明とは」①。基本概念と一般的な仕事の流れ。
- 9回 「照明とは」②。実際に「仕込み」を疑似体験する。
- 10回 「照明とは」③。実際に「オペ」を疑似体験する。
- 11回 音響&ピンフォロー①。
- 12回 音響&ピンフォロー②。
- 13回 舞台のDVD観賞①「照明と演出」
- 14回 舞台のDVD観賞②「音響、衣裳、小道具」
- 15回 授業の振り返り。まとめの講義。

### ＝テキスト（必携）＝

特になし。手作りの資料、台本などは必要に応じて授業時に配布します。

### ＝参考書・参考資料（必携）＝

特になし。必要に応じて授業時に紹介します。

### **=成績評価の方法と評価の基準=**

出席数を含めた通常の参加状況を 50%、授業態度 10%、残りを各種の提出課題、オペレートの擬似験誤の成果に配分するイメージで、総合的に評価する。

### **=その他=**